

国立天文台NAOJシンポジウム開催報告書

2019年12月16日

国立天文台長 殿

代表者	氏名	(ふりがな) おかもと さくらこ、しまかわ りずむ 岡本 桜子、嶋川里澄
	所属・職	助教、天文台フェロー
NAOJシンポジウム名称	和文	すばる望遠鏡生誕20周年記念・第7回すばる国際シンポジウム
	英文	The 7th Subaru International Conference - 20 Years Anniversary in Hawaii -
開催期間	2019年11月17日～2019年11月22日	
開催場所	Waikoloa Beach Marriott, 69-275 Waikoloa Beach Dr, Waikoloa Beach, HI 96738, HI, USA	
参加人数・国数 (国数は所属機関の国数)	244名・14ヶ国	
発表資料等の情報	<a href="https://subarutelescope.org/subaru20anniv/index.html">https://subarutelescope.org/subaru20anniv/index.html</a> (ページ中程の "Presentation slides" → 各セッションページに発表順に発表資料をリンクしています) <a href="https://subarutelescope.org/subaru20anniv/assets/files/program_v3.pdf">https://subarutelescope.org/subaru20anniv/assets/files/program_v3.pdf</a> シンポジウムのプログラムや発表資料等をまとめたHPがあればURLを記載してください。 提出後に作成された場合もご連絡ください。国立天文台研究交流委員会HPにリンクを張らせていただきます。HPではなく、論文や冊子を作成している場合は、可能であれば一部ご提供ください。(論文の場合はDOIの情報でも可)	
NAOJシンポジウムの概要	<p>すばる望遠鏡の科学的ファーストライトから20年目にあたる2019年に、すばるの20周年を祝うNAOJシンポジウムをハワイ島で開催した。すばる国際会議シリーズの第7回と、2019年度すばるユーザーズミーティングを兼ねた集会として、ワイコロア地区の滞在型ホテルにて11月17日から11月22日の日程で実施し、世界14カ国から244名の研究者が参加した。そのうち日本からの参加者は約50%、女性参加者は約20%、学生参加者は約20%である。</p> <p>会議は、初日の11月17日(日)を2019年度すばるユーザーズミーティング、翌日から最終日までを国際研究集会とする構成で、大型将来計画やサイエンスの基調講演を行う全体セッションでは口頭講演が53件、各研究分野に分かれるパラレルセッションでは口頭講演149件とポスター講演57件が発表された。</p> <p>[全体セッション]                      Subaru User's Meeting FY2019, Synergy with TMT, Future Wide-field survey, Synergy with WFIRST, Subaru Future Instruments, Science Keynotes                      [パラレルセッション]                      太陽系、系外惑星と星形成、局部銀河群と近傍銀河、銀河形成、巨大ブラックホール、時間軸天文学、PFSによるサイエンス、装置とソフトウェア</p>	

<p>NAOJシンポジウムの成果</p>	<p>本研究集会は、すばる望遠鏡によるこれまでの科学成果を総括するとともに各研究分野における最新結果を共有すること、また現行および計画中のすばるの大型プロジェクトについて議論し、TMT, WFIRST, Euclid, LSSTなどの他の大型将来計画とすばるとのシナジーを検討することを主な目的としていた。</p> <p>サイエンスセッションでは、すばると関わりの深い研究分野の研究者が多く参加できるよう、6つの研究分野の平行セッションを設け、将来の天文学を担う若手-中堅の有力研究者を主体とするSOCを組織した。また発表内容は、すばるの成果に限らず各分野の最先端かつ重要な研究結果を広く受け付けた。これらの取り組みの結果、世界の天文学全体の中で、今後すばるが目指すべき立ち位置やそれに伴う課題を見据えた建設的な議論を展開することができた。また口頭講演の枠を多く確保し、大学院生や若手研究者への旅費補助を手厚くしたことで、国内外の若手研究者による発表や質問も多く、彼らの今後の共同研究に繋がるような交流の場を提供できた。全体向けのサイエンス基調講演では、各分野を代表する6名の方々に、すばるを中心に各分野を総括して今後の方向性を示していただいたことで、すばる望遠鏡がこの20年間に貢献してきた科学成果と今後の見通しを、分野を横断して俯瞰することができた。</p> <p>全体セッションでは、すばるの現在/将来プロジェクトが紹介されると共に、将来の広視野撮像サーベイや超大型望遠鏡、天文観測衛星など欧米の大型計画の代表者から、すばると各計画との親和性の高さと、今後の光赤外天文学におけるすばるの重要性が強調され、すばるに対する世界的な期待が非常に大きいことが示された。</p> <p>本研究集会では、招待講演を基本とする全体セッションと、一般講演を公募する平行セッションを設けたことで、参加者が特定の科学分野やプロジェクトに偏らず、すばる望遠鏡のこれまでの活動と今後の方向性を参加者全員が共有することができた。2007年に開催されたすばる国際会議シリーズ第一回から参加人数は大幅に増え、また約半数が日本以外からの参加だったこともあり、すばるコミュニティの拡大と国際化が大いに印象付けられた。また会場をゆとりのある滞在型大型ホテルにしたことで、休憩中やセッション前後に、参加者同士が自由に議論を行う様子がさまざまな場所で見られたのも特徴である。研究集会全体や開催場所、関連イベントについても、多くの参加者から高い評価の声が寄せられており、すばる望遠鏡の20周年を祝う国際研究集会として大きな成功を収めることができた。</p>
<p>その他参考となる事項 (希望事項も含む)</p>	